

死路に一条の活路を  
末期がんと生きる

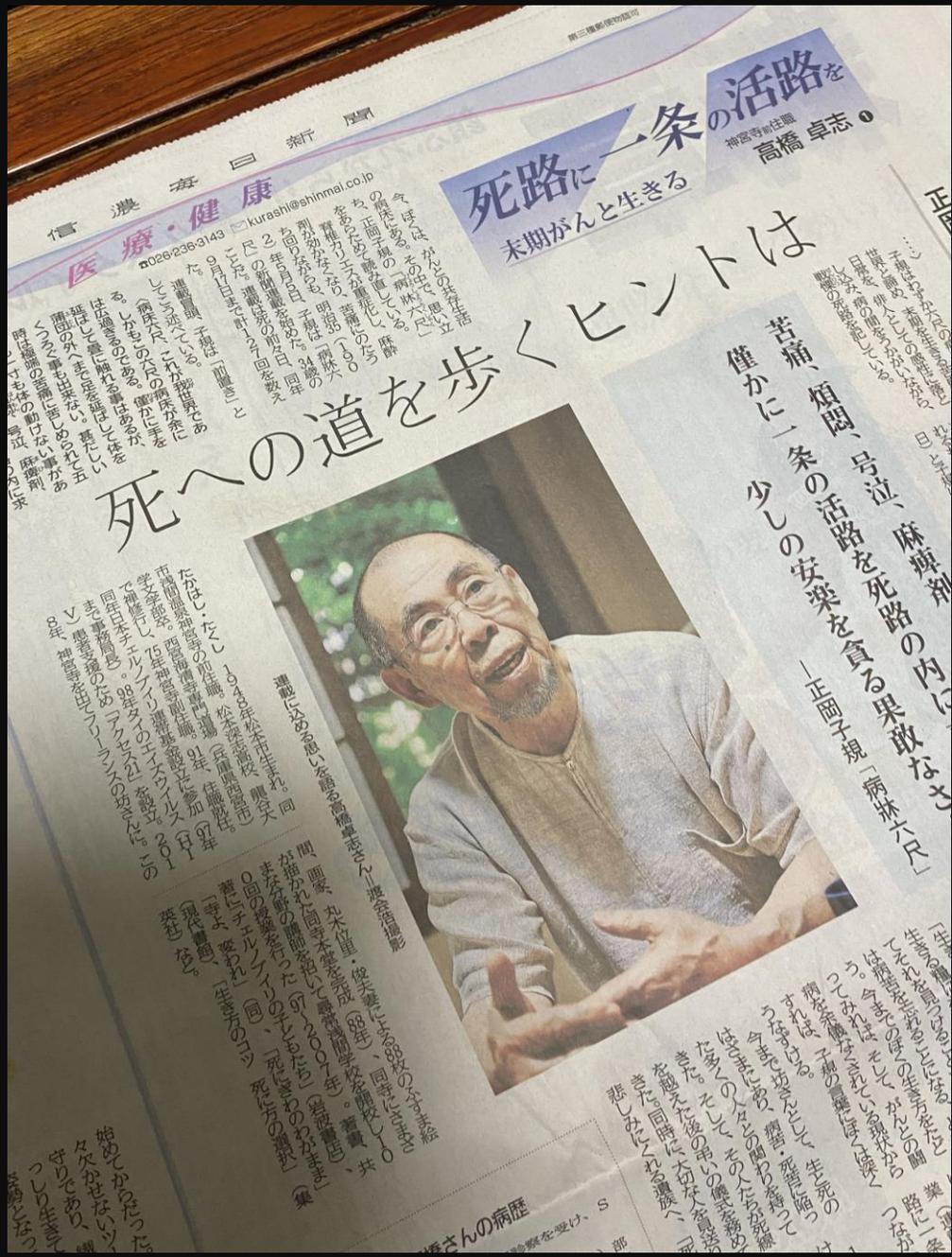
高橋卓志



苦痛、煩悶、号泣、麻痺剤、  
僅かに**一条の活路を**  
**死路の内に求めて**  
少しの安楽を貪る果敢なさ

正岡子規「病牀六尺」より

病牀六尺



信濃毎日新聞  
デジタル  
をご覧ください

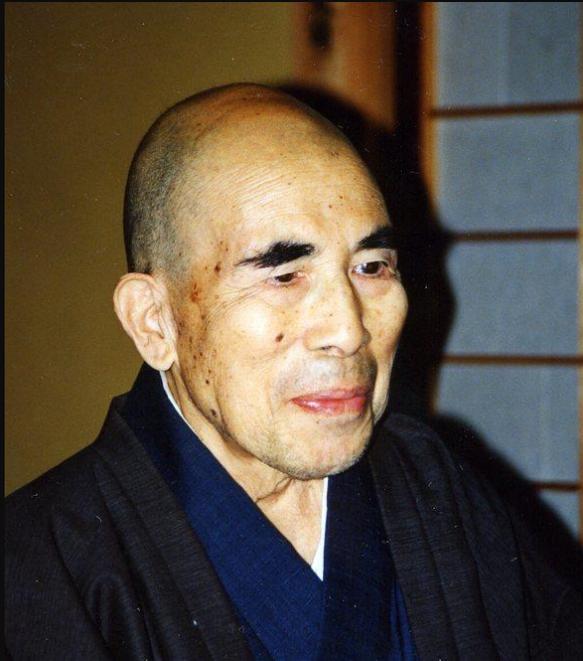
死のリアリティ！

だが、それは、  
(坊さんだった)  
ぼくにとつて  
願ってもない……

大ネタ！

# 生死一如

死ぬってことは  
下駄をつっかけて  
隣の家に  
行くようなもんさ



高橋勇音

1994年1月31日死去

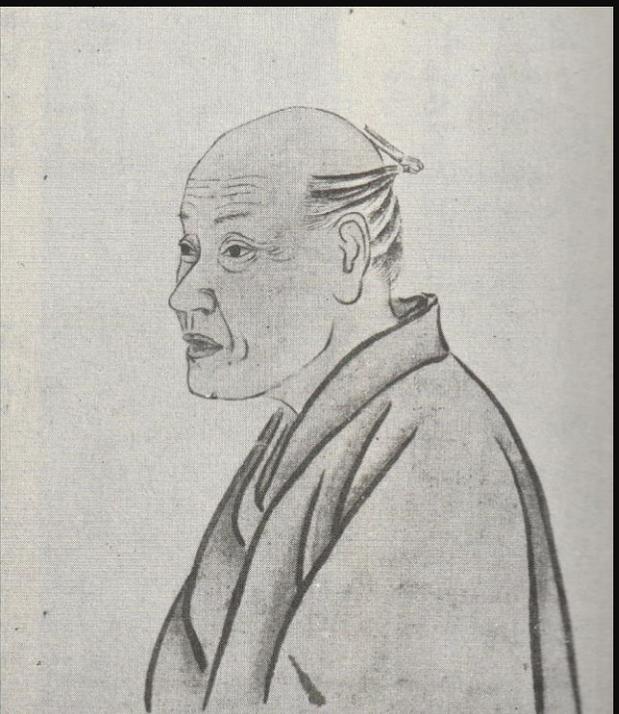
1月7日現在

1. 食欲がない
2. 食べものの味が一切ない
3. 右めまがらが痛む
4. 二、三日通じがない
5. 床上で、背がこびれる
6. 歩行が困難で特に足指が痛む
7. 精神的に不安定と云うか  
万事にイセリを感じる。

# 一人称の死

今までは  
人のことだと思ふたに  
俺が**死**ぬとは  
こいつはたまらん

大田南畝（狂号〓蜀山人）



2014年3～4月

一人称の死に  
備える旅に出る！

緩和ケアⅡマギーズセンター  
自殺ほう助ⅡEBC  
安楽死Ⅱオランダ安楽死協会

# MAGGIE'S CENTRE

The Maggie Keswick Jencks Cancer Caring Centres

---

マギーズセンター

本来の自分を取り戻す場所

生きようとする  
意欲を  
サポートする



## マギーズ・センター

Maggie's Edinburgh

死の恐怖の中でも生きる喜びを感じられる場所

再発乳がん患者だったマギー・ケズウィック・ジェンクスさんの遺志により1996年、スコットランド・エディンバラに設立される。

# 「緩和ケア」と「安楽死」

安楽死が「死の選択」を  
尊重するものだとすれば  
マギーズの活動は  
「生きようとする意欲」  
をサポートするもの



エディンバラ・マギーズ  
アンダーソン所長(看護師)



がん患者や家族がキッチンテーブルを囲みながら和やかに話す

# EXIT

---

エグジット

自殺ほう助

回復の見込みがなく、複数の病気を抱え、  
質の高いQOLを願うことができず、  
どうしても生き続ける意味が見いだせない場合

患者自身がその状態で生きることを望まず、  
それに耐えることも、尊厳をもち続けることも  
不可能の場合

最終ステージまで待つことは冷酷なことだろう

EXIT・CEO Hans Mulalt氏

# 自殺ほう助について

自殺ほう助は、耐え難い痛みを緩和するための選択肢のひとつであり、緩和ケアの延長線上にある

きびしい症状になったとき、最後の手段として、安らかに死んでいける方法。それは一種の保険のようなもの、と理解している人々が多い



EXIT・CEO Hans Mulalt

A photograph of a room, likely a hospital or care facility, featuring a bed with white linens, a floor lamp, a window with blinds, and a small table with various items. The room is dimly lit, with a warm, yellowish glow from the lamp. The text "The Dying Room (死にゆく部屋) — 自殺ほう助組織・・・EXIT" is overlaid on the image in white and yellow characters.

The Dying Room (死にゆく部屋) — 自殺ほう助組織・・・EXIT

**死**路には何がある？  
納得の**活**路は見つかるか？



# 治療の経過

放射線+  
抗がん剤  
10~11月

抗がん剤  
11~5月





# 死の前には 何が起こる？

## 高橋卓志の場合

### 予測される死の兆候

- ◆ 死の3カ月前  
食事が困難になる
- ◆ 1カ月前  
日常生活が「全介助」になる
- ◆ 2週間～数日前  
せん妄が出て、見えないものが見え、  
あり得ないことを言う

毎日新聞・瀧野隆浩の『掃苔記』5/19より

### 【2021年】

- 3月 血便が出て病院で診察を受け、S状結腸がんと判明
- 4月 S状結腸がんの手術
- 10月 4月の手術の吻合（ふんごう）部に虚血性腸炎を発症。その治療中に直腸がんが見つかり、2回目の手術に。肛門を切除・閉鎖し、人工肛門（ストーマ）を造設。同時に、2個のポリープと、炎症がひどかった胆のう・胆管も摘出

### 【2022年】

- 9月 小腸、膀胱（ぼうこう）壁、腹壁にがんの転移が認められ、7時間に及ぶ手術。1年半で3回目の手術
- 11月 膀胱壁のがんは手術で取り切れず、抗がん剤治療を開始

### 【2023年】

- 5月 8サイクル（半年間）の抗がん剤治療を終了
- 10月 閉鎖した肛門部分にがん性の痛みがあり、放射線治療に入る

# 死は快い？



フィリップ・アリエス  
フランスの歴史家

死は麻酔状態を思わせる  
快さを持っている……

# 死は快い？



フィリップ・アリエス  
フランスの歴史家

死は麻酔状態を思わせる  
快さを持っている……  
のに、聖職者と教会は、  
その快さを、異様で恐ろしい  
いでたちのもとに隠へいし  
その性格を  
ゆがめようとしている

死路に一条の活路を  
限られた時間の生き方

ホスピス

# 最期の輝きのために

Choice is yours

ホスピスは終末期の人を対象にするけれど  
患者さんの意思を尊重し 痛みや苦しみを取り除き  
最期までその人らしい生き方ができるように支えていくところです  
生命の輝きを取り戻す空間なんです……

内藤いづみ ■ ふじ内科クリニック院長

鎌田 實 ■ 諏訪中央病院院長

高橋卓志 ■ 神宮寺住職

Choice is yours

告知から  
選択へ……

告知は誰のものか？  
すべての痛みからの  
解放は可能か？  
納得して選んだ  
私自身の死をめぐる  
語り下ろしホスピスマインド

内藤いづみ

+

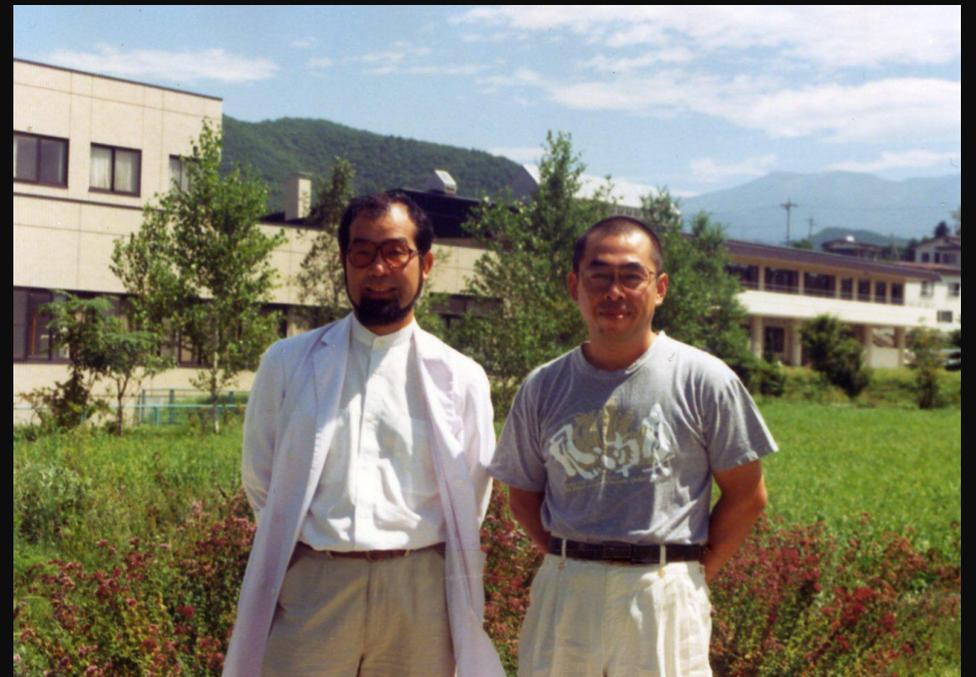
鎌田實

+

高橋卓志

1997年

オフィスエム刊



# 引導を渡してくれる医師たち！

「じんさんの余命告知は ぼくがするよ！」  
鎌田實先生



死への適切なアドバイスをいただく……  
内藤いづみ先生と川越厚先生



2022年11月 入院中の京丹後市立久美浜病院で  
新型コロナウイルス感染防止のためこうなった。

でも、  
ぼくは孤独ではありません！  
こんな家族がいます。

最大の病は：誰にも必要とされず、  
誰にも気に留めてもらえず、  
すべての人から見すてられている  
という孤独です・・・マザー・テレサ



あと、2カ月で16歳になる盟友・平治。  
彼も最期の生き方を見せてくれている。

# 『死ぬ死ぬ詐欺』 にご用心！

いまの目標は、数年先に「まだ生きてる  
じゃん。あのときの高橋さんって〈死ぬ死  
ぬ詐欺〉だったね」と笑われることです。

コレ、岡田林太郎さん（みずき出版）の著書『憶えている』からのパクリです。

